

今月第11号は九州部熊本ジェーンズクラブの上村眞智子ワイズにご登壇いただきます。



私の EMC 活動は「語ること！伝えること！」

九州部熊本ジェーンズクラブ

上村 眞智子ワイズ

ワイズメンズクラブの存在を知り、ワイズメンとしての歩みを始めたのは、今から16年前。現在も熊本 YMCA 学院の非常勤講師として YMCA と関わりを持っていますが、ある日、学院の講師控室で、講師仲間の先生から、「私の姪が、ワイズメンズクラブと言う団体に入っていて、今度、その会が太田黒恵一さん（熊本の有名地元タレント）の楽しいトークショーを開催するから、いらっしやいませんか？」とお誘いを受けたのがきっかけでした。

さてさて如何なる団体か、何の知識もない私でしたが、ホテルで楽しいお話が聞け、美味しいお食事が頂けると伺い、「ハイ！」と即答致しました。

当時の私の理解は「楽しいトークショー」でしたが、クラブにとっては「200%例会」の意味合いを持つ例会だったのです。

多くのワイズメンやゲスト、ビジターの方々と一緒に楽しい2時間が過ぎ、「次回も是非参加を！」とのお誘いの言葉に、「ハイ！」と素直に返事を差し上げ、確か3回目は何と入会式だった覚えがあります。

私のスポンサーは小堀鈴代ワイズ。私へ誘いの言葉掛けをして下さった先生の姪御さん、その人です。彼女が、叔母さまにワイズのことを熱心に語り伝え、その叔母さまが私に伝えて下さったこと、そして YMCA 学院講師として YMCA と関わりを持っていたことで、私とワイズの縁は繋がったのです。

今期、私は九州部部長主題に「ワイズの魅力を、ワイズの力を、ワイズ活動を伝えるワイズメンになろう！」を掲げて頑張っていますが、正に、私の主題は私がワイズメンになった原点に起因しているのです。

入会して16年目の私自身に、何故、ワイズを続けているの？と問い掛けた時、私の答えは、「そこに楽しくて、面白くて、素敵な人がいるから！」の一言に尽きます。年齢も職業も地位も名誉も何の垣根もなく、人と人とが集い合う居心地の良い空間、そこに漂う安心出来る空気感は、何物にも代えがたいものだから。

先日、熊本みなみクラブのお花見に伺った時のことです。みなみクラブ3月例会にゲストとして参加されていた男性がお花見にも参加されていたので、挨拶を交わし、初対面で伺ったお仕事のことを話題にしたら、「よくご存じですね」と本人さんが

驚かれたのです。「いやいや、名刺交換して、お話を少ししましたよ」と伝えた所、「あっ、すみません。そうでした。良く覚えていて下さいましたね。」と恐縮されたご様子。

その後、仕事を中心にした会話が弾み、同じ価値観を持つ人と人々が繋がり、社会と繋がり、奉仕する過程で覚える喜びがワイズの力であり魅力だということ迄、存分に伝え、互いに共感し合うことが出来ました。少しでも彼のワイズ理解が進み、入会に繋がれば嬉しいと感じた時間でした。

又、そのお花見では、素敵なワイズレディとお話する機会にも恵まれました。ワイズ歴の浅い笑顔が素敵な彼女は、ワイズに入っていて本当に良かった！と嬉しそうに語って下さいました。

何が？と問いかけた所、自分が描いていたキャリアデザインを実行に移そうと思いワイズの仲間に色々と相談したら、親身になって話を聴いてもらい、背中を押してもらい、5月にはスタート出来ること。何の損得勘定もないフラットな関係、唯、価値観を同じく有する仲間の存在、仲間の言葉がとても心強く、嬉しかった。ワイズに入っていて良かった！と、嬉しそうに話される彼女の顔は美しく、輝いていました。

世の中で「ワークライフバランス」と言う言葉が聞かれて久しいのですが、私は「ワークライフ・ソーシャルバランス」と言う言葉を大切にしています。

「仕事・家庭・社会」が上手く繋がったバランスの取れた三角形を意識して行動出来ている人は幸福感を味わえると私は信じています。このソーシャル・社会の領域で大きな力を発揮出来る可能性をワイズは秘めているのではないのでしょうか。

仕事も家庭もとても大事なものですが、社会的な繋がり、接点を持っている人は思考と行動の範囲が自ずと広がり、人生を豊かに送ることになる！いや送れる！のです。

花見の席で会話を交わした男性ゲストとは、ワイズの魅力を、ワイズの力を大いに語り、伝えることが出来ました。ワイズ仲間との語らいからは、ワイズとの繋がりが社会との繋がりとなり、人生の転機・キャリアチェンジにワイズメンの存在が大きな影響を与えたことに誇らしさを感じました。

私達は日常生活を送る社会では職業人、親、子供、配偶者等としての役割を担っています。ウェートの置き方に夫々違いはありますが、幸運にも私達は色々な役割と居場所を持ち、その中で、多くの人達と交わって多くの学びを得て、経験を積み、キャリアを構築して行くことが出来ます。

キャリアの基準を、①キャリアの横の「長さ」：ライフステージ(キャリアの階段)、②キャリアの縦の「幅」：ライフロール(キャリアの役割)に置いて理論を展開したアメリカのキャリア学者ドナルド・E・スーパーという人がいます。

ライフステージは、成長段階(0歳～15歳)、探索段階(16歳～25歳)、確立段階(26歳～45歳)、維持段階(46歳～65歳)、下降段階(60歳以降)の5つのス

ステージに分かれ、自己実現を目指してそれぞれの段階には課題が存在します。

ライフロールとは、キャリアを人生のある年齢や場面の様々な役割の組み合わせと考え、人には7つの役割(1息子・娘、2学生、3職業人、4配偶者、5ホームメーカー、6親、7余暇を楽しむ人、市民)があるとスーパーは言い、七色の虹に擬えて『キャリアレインボー』と称し、「人生やキャリアとは、人生に於ける役割をいくつか選んで組み合わせる事で、自己概念を実現しようとする試みである」と言っています。夫々のライフステージで夫々のロールを担う私達は、多くの人達との交わりを持つことが可能です。

さて、私達ワイズメンとしてのロールはと問われたら、答えは、7. 余暇を楽しむ人・市民でしょうか。私を例にすれば、私には94歳の母が存命ですので子の役割、子どもが3人いますので親の役割、仕事もしていますので職業人、ワイズメンとしての市民・余暇を楽しむ人の4つのロールを担っていることになります。

全てに頑張っていますが、ワイズメンとしてのロールでは、ワイズの魅力を、ワイズの力を、ワイズ活動を誰かに、何かの機会に伝えることの実践に努めています。

その行為こそがワイズの仲間を増やすことに繋がり、社会でワイズが力を発揮出来ることにも自然と繋がって行き、大げさに言うなら生きる価値をも見出せ、自分自身が自分の人生に満足する時こそ、自身のキャリアの成功と言える信じて。

ワイズの為、そして自分自身のキャリア構築、キャリアの成功、自己実現を目指して、皆様、EMC 活動を精一杯頑張りましょう！

(九州部部长、元西日本区交流事業主任)